



令和7年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

令和6年11月13日

上場会社名 高圧ガス工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4097 URL <https://www.koatsugas.co.jp>
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）黒木幹也
 問合せ先責任者（役職名）取締役常務執行役員管理本部長（氏名）池田佳弘（TEL）06（7711）2570
 半期報告書提出予定日 令和6年11月13日 配当支払開始予定日 令和6年12月10日
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 令和7年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（令和6年4月1日～令和6年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
7年3月期中間期	47,517	6.0	2,737	4.4	3,023	△6.1	2,017	△9.0
6年3月期中間期	44,808	1.7	2,620	7.2	3,219	7.9	2,219	12.0

（注）包括利益 7年3月期中間期 2,174百万円（△44.0%） 6年3月期中間期 3,885百万円（102.5%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
7年3月期中間期	36.56	—
6年3月期中間期	40.20	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
7年3月期中間期	119,170	78,058	64.8
6年3月期	120,184	76,451	63.0

（参考）自己資本 7年3月期中間期 77,292百万円 6年3月期 75,716百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
6年3月期	—	9.00	—	11.00	20.00
7年3月期	—	10.00	—	—	—
7年3月期（予想）	—	—	—	10.00	20.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和7年3月期の連結業績予想（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	100,000	7.2	6,600	15.0	7,200	8.1	4,800	6.5	86.36

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
 新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	7年3月期中間期	55,577,526株	6年3月期	55,577,526株
② 期末自己株式数	7年3月期中間期	373,833株	6年3月期	373,793株
③ 期中平均株式数(中間期)	7年3月期中間期	55,174,824株	6年3月期中間期	55,203,936株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、第2四半期(中間期)決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結会計期間	6
中間連結包括利益計算書	7
中間連結会計期間	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境等の改善により、景気は緩やかな回復基調にあるものの、中国経済の先行き懸念等による海外景気の下振れや、エネルギー価格や原材料価格の高止まりなどの影響により、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当中間連結会計期間の売上高は475億17百万円(前年同期比6.0%増加)、営業利益は27億37百万円(前年同期比4.4%増加)、経常利益は30億23百万円(前年同期比6.1%減少)、親会社株主に帰属する中間純利益は20億17百万円(前年同期比9.0%減少)となりました。

当中間連結会計期間における、セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① ガス事業

ガス事業を取り巻く環境は、鉄鋼、自動車、建設など仕向け先において、需要回復が鈍く、厳しい状況で推移いたしました。

このような事業環境のなか、当事業ではシリンダーガスビジネスの持続的な成長や収益の改善を目指し、地域に密着した営業に努めるとともに、カーボンニュートラル社会の実現に向け、環境負荷の低い液化アンモニアや水素ガス等の販売や供給網整備に取り組んでおります。また、従来の熱処理工法よりCO2発生量を90%以上削減できる溶解アセチレンを用いた新工法を開発し、推進しております。

『溶解アセチレン』は、建設及び造船業界向けに需要が減少いたしました。自動車産業向けの一部需要回復と価格改定により、売上高は前年同期を上回りました。『その他工業ガス等』は、酸素、アルゴンが新規獲得及び納入先の需要回復、窒素が食品向けの需要増加及び半導体向け需要回復により増加し、LNG、アンモニア及びフルオロカーボン、新規獲得により増加いたしました。また、LPガス等は、輸入価格の上昇に伴う販売価格の上昇により増加し、売上高は前年同期を上回りました。『溶接溶断関連機器』は設備工事や工作機械等の受注が一部回復し、売上高は前年同期を上回りました。『容器』は、水素用長尺容器の新規獲得や消火設備装置向け容器の需要が増加し、売上高は前年同期を上回りました。

このほか、設備賃貸の収入を加えた当事業の売上高は348億10百万円(前年同期比6.8%増加)となりました。営業利益は30億3百万円(前年同期比12.1%増加)となりました。

② 化成品事業

化成品事業を取り巻く環境は、円安影響やナフサ価格の上昇による原材料価格の高騰が続く厳しい状況で推移いたしました。

このような事業環境のなか、当事業では更なる生産体制の増強と供給体制を拡充するため、甲賀工場を建設し、名古屋工場(化成品)を閉鎖いたしました。引き続き仕向け先への製品の安定供給、並びに新しい技術開発により、環境配慮型水性接着剤や高耐候性塗料など環境にやさしい製品や付加価値の高い製品づくりに努めてまいりました。

『接着剤』は、ペガールは木工用・塗料用が減少いたしました。土木建築用・紙工用が新規獲得により増加いたしました。シアノン南米向けが減少いたしました。韓国・フィリピン向けの需要が増加、また、タイ向けが新規案件の獲得により増加いたしました。ペガロックは欧米向けの需要が増加いたしました。売上高は、接着剤全般の原材料価格の高騰に伴う価格改定もあり、前年同期を上回りました。『塗料』は、建築用塗料の戸建塗替え需要の低迷が続くなか、「ウォールバリアシリーズ」「ビーズコートシリーズ」等の高機能製品は伸長したものの、一般建築塗料・防水用塗料・工業用塗料が減少いたしました。また、エアゾール製品は防水スプレーは伸長しましたが、売上高は、前年同期を下回りました。

このほか、設備賃貸の収入を加えた当事業の売上高は107億93百万円(前年同期比4.6%増加)となりました。営業利益は、甲賀工場の初期投資の影響があり4億38百万円(前年同期比23.5%減少)となりました。

③ その他事業

その他事業は、L S Iカード関連の需要が減少したものの食品添加物の需要が増加し、前年同期を上回り、売上高は19億13百万円(前年同期比0.2%増加)、営業利益は6百万円(前年同期比29.3%増加)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ10億13百万円減少して1,191億70百万円となりました。流動資産は、棚卸資産が増加したものの現金及び預金、売上債権である受取手形、売掛金が減少したことにより前連結会計年度末に比べ25億83百万円減少して、614億60百万円となりました。固定資産は、有形固定資産が増加したことにより前連結会計年度末に比べて15億70百万円増加し、577億10百万円となりました。

当中間連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ26億20百万円減少して411億12百万円となりました。流動負債は、仕入債務である支払手形、買掛金が減少したことにより前連結会計年度末に比べ27億15百万円減少し、271億93百万円となりました。固定負債は、退職給付に係る負債が増加したことにより前連結会計年度末に比べ95百万円増加し、139億18百万円となりました。

当中間連結会計期間末の純資産合計は、利益剰余金が増加したことにより前連結会計年度末に比べ16億6百万円増加して780億58百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点におきましては、令和6年5月15日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいており、実際の業績は様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

今後の業績動向を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合は速やかに公表いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和6年3月31日)	当中間連結会計期間 (令和6年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,219	27,582
受取手形及び売掛金	21,824	19,691
電子記録債権	6,720	7,221
商品及び製品	3,653	3,772
仕掛品	823	925
原材料及び貯蔵品	1,727	1,963
その他	380	636
貸倒引当金	△305	△331
流動資産合計	64,044	61,460
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,510	15,589
機械装置及び運搬具(純額)	4,823	7,444
土地	15,276	15,639
建設仮勘定	2,250	456
その他(純額)	1,287	1,425
有形固定資産合計	39,149	40,555
無形固定資産	639	630
投資その他の資産		
投資有価証券	14,670	14,816
繰延税金資産	72	65
その他	1,790	1,821
貸倒引当金	△182	△179
投資その他の資産合計	16,351	16,524
固定資産合計	56,140	57,710
資産合計	120,184	119,170

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (令和6年3月31日)	当中間連結会計期間 (令和6年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,921	10,821
電子記録債務	8,658	8,771
短期借入金	1,265	1,450
1年内返済予定の長期借入金	129	85
未払法人税等	1,249	1,074
賞与引当金	1,443	1,588
その他	4,242	3,402
流動負債合計	29,909	27,193
固定負債		
長期借入金	10,122	10,102
退職給付に係る負債	59	135
役員退職慰労引当金	9	39
繰延税金負債	2,924	2,896
その他	706	745
固定負債合計	13,823	13,918
負債合計	43,732	41,112
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,885	2,885
資本剰余金	2,811	2,830
利益剰余金	62,551	63,961
自己株式	△200	△212
株主資本合計	68,047	69,465
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,041	6,982
為替換算調整勘定	116	352
退職給付に係る調整累計額	511	492
その他の包括利益累計額合計	7,668	7,827
非支配株主持分	734	765
純資産合計	76,451	78,058
負債純資産合計	120,184	119,170

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 令和6年4月1日 至 令和6年9月30日)
売上高	44,808	47,517
売上原価	32,690	34,959
売上総利益	12,118	12,557
販売費及び一般管理費	9,497	9,820
営業利益	2,620	2,737
営業外収益		
受取利息	6	9
受取配当金	154	176
為替差益	210	—
受取手数料	43	43
補助金及び助成金	—	171
その他	267	272
営業外収益合計	681	672
営業外費用		
支払利息	21	30
為替差損	—	134
その他	60	220
営業外費用合計	81	386
経常利益	3,219	3,023
特別利益		
投資有価証券売却益	119	7
特別利益合計	119	7
特別損失		
投資有価証券売却損	8	—
投資有価証券評価損	—	0
特別損失合計	8	0
税金等調整前中間純利益	3,331	3,030
法人税、住民税及び事業税	1,048	1,026
法人税等調整額	37	△23
法人税等合計	1,085	1,002
中間純利益	2,245	2,028
非支配株主に帰属する中間純利益	26	10
親会社株主に帰属する中間純利益	2,219	2,017

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 令和6年4月1日 至 令和6年9月30日)
中間純利益	2,245	2,028
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,575	△71
為替換算調整勘定	58	236
退職給付に係る調整額	6	△19
その他の包括利益合計	1,639	145
中間包括利益	3,885	2,174
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	3,845	2,176
非支配株主に係る中間包括利益	40	△1

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 令和6年4月1日 至 令和6年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	3,331	3,030
減価償却費	1,304	1,319
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△17	49
受取利息及び受取配当金	△160	△185
支払利息	21	30
為替差損益(△は益)	△202	102
売上債権の増減額(△は増加)	928	2,371
棚卸資産の増減額(△は増加)	△149	△356
仕入債務の増減額(△は減少)	371	△2,607
投資有価証券売却損益(△は益)	△111	△7
賞与引当金の増減額(△は減少)	△103	100
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△5	1
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△69	△72
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△5	△1
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△40	△51
投資有価証券評価損益(△は益)	—	0
補助金及び助成金	—	△171
未払消費税等の増減額(△は減少)	183	△70
その他	△44	△194
小計	5,228	3,288
利息及び配当金の受取額	160	185
利息の支払額	△21	△30
法人税等の支払額	△989	△1,204
補助金及び助成金の受取額	—	171
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,378	2,410
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△264	△615
定期預金の払戻による収入	114	383
有形固定資産の取得による支出	△2,831	△2,653
投資有価証券の取得による支出	△40	△220
投資有価証券の売却による収入	154	9
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△712
その他の支出	△66	△43
その他の収入	12	49
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,920	△3,801
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	40	150
長期借入れによる収入	2,500	—
長期借入金の返済による支出	△1,050	△74
配当金の支払額	△551	△606
自己株式の売却による収入	—	34
その他の支出	△9	△16
その他	—	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	928	△515
現金及び現金同等物に係る換算差額	△102	△44
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,283	△1,951
現金及び現金同等物の期首残高	25,884	28,454
現金及び現金同等物の中間期末残高	28,167	26,503

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号令和4年10月28日。以下「令和4年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、令和4年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号令和4年10月28日。以下「令和4年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。

なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、令和4年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前中間の連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、従来、有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法について、定率法(平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)及び平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備、構築物ならびに佐倉工場を除く))を採用しておりましたが、当中間連結会計期間より定額法に変更しております。

高圧ガスや接着剤等の市場は成熟が進み、需要動向は安定しております。当社グループの国内投資も生産量の拡大ではなく、設備の維持・更新投資が中心になっております。

このような状況のなか、接着剤を製造している名古屋工場の設備老朽化と建物のガス製造設備との保安距離の関係から耐震補強が困難なことから、工場を移転することとなり、工場移転を契機として、設備の使用方法に照らした償却方法の見直しを実施しました。その結果、当社グループの有形固定資産は、長期的かつ安定的に稼働することが見込まれるため、当社の有形固定資産の減価償却方法として使用可能期間にわたって平均的に原価配分する定額法を採用することが、経営実態をより適切に反映すると判断したものです。

この変更により、従来の方によった場合と比較して、当中間連結会計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前中間純利益はそれぞれ3億39百万円増加しています。

(セグメント情報等)

I 前中間連結会計期間(自 令和5年4月1日 至 令和5年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	中間連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ガス事業	化成品事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	32,583	10,316	1,908	44,808	—	44,808
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	32,583	10,316	1,908	44,808	—	44,808
セグメント利益	2,679	573	4	3,257	△636	2,620

(注) 1 セグメント利益の調整額△636百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行なっています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間(自 令和6年4月1日 至 令和6年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	中間連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ガス事業	化成品事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	34,810	10,793	1,913	47,517	—	47,517
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	34,810	10,793	1,913	47,517	—	47,517
セグメント利益	3,003	438	6	3,448	△711	2,737

(注) 1 セグメント利益の調整額△711百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行なっています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。